発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名：　中部日中活動センター

取り組み	障害特性に合わせた公平な支援	取り組み期間	６年４月～ ６年１０月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	就労継続支援B型事業では、利用者のアプローチにばらつきがあること、家族と利用者本人との間に意向の違いがあること、職員の作業負担増で、長期的に利用者へのサービス提供の維持が困難なことなどの課題がある。そこで長期目標に「①作業工程細分化で参加可能な作業が増えることによる利用者の自己肯定感の向上：稼働率160%、②作業効率向上に伴う工賃支給額の上昇：平均工賃17000円/月、③適切な支援を提供できていることによる職員の満足度向上と、利用者が安定していることで家族の理解：満足度調査」、短期目標に「①作業工程細分化後の活動参加率上昇について特定利用者で検証：昨年度と今年度の活動不参加記録の比較、②上記特定利用者による発言内容記録等の比較」を置き、取り組みを開始した。
「D」 計画の実践	受注作業はその日によって異なるが、これまではすべての作業工程ができる利用者に配分していたが、作業工程を１０程度に細分化して、利用者が参加できる作業を増やしていった。目標の達成は、特定の利用者１名を選んで、昨年度との比較で検証することにした。
「C」 実践の評価	集中的に取り組む対象者を１名に絞ったことで、情報の共有をスムーズに行うことができた。また、これまであまりうまく支援できていたとは言えないケースであったこともあり、利用者の反応が変化していく様子は、職員にとっても評価される要因となった。①作業参加回数（４月～１０月）昨年度２１４、今年度２２７、②ネガティブ記録数（４月～１０月）昨年度１４２、今年度１３、③評価～記録上の参加回数からは大きな差異はなし。ただしネガティブ記録が大きく減少した結果から、利用者の自己肯定感向上が推測された。利用者が意欲的になった。
「Ａ」 結果と 改定計画	作業参加回数に極端な差は認められなかったが、昼寝や抜け出し、ゲームをしてしまう等のネガティブ記録が大きく減少した。利用者が参加できる作業工程になったことで集中して取り組めたこと、職員の障害特性への理解が進んだことで働きかけがより適切になった影響を感じた。また、思いがけない効果として、①職員の障害特性への関心が高まったこと、②障害特性だけでなく、その時々の体調等にも注意するようになったこと、③対象となった利用者と職員の関係性が良好になったこと、④他の利用者にも良い影響が感じられたこと等が挙げられる。対象の利用者を拡大し、作業工程細分化に合わせて工賃を設定し、計画を継続することとした。

＜第三者評価コメント＞

作業工程を細分化した今回の取り組みは、成果もあがっている。取り組みは継続し、次の計画を具体的に立てていることから、今後の成果に期待する。